

新宿区立 四谷子ども園（東京都新宿区）

職員数：55 名 在籍園児数：167 名（令和4年2月時点）

【子育て支援事業】

認定こども園の草創期から子育て支援事業を実施。子育て経験の少ない保護者に向け、ベテラン保育教諭による悩み相談や、親子のふれあいを大切にした子育て支援を行っている。

- ・一時保育「どんぐり」（一時預かり事業（施設型））
 - ・未就園児親子の遊び場開放「つどいの部屋」（地域の親子が交流する場の開設、交流の場での情報提供・相談支援事業）
 - ・子育て相談（家庭への情報提供・相談事業）
- ◆年間利用者数：一時保育「どんぐり」：約 1,330 名、つどいの部屋：230 名、子育て相談 34 名（延べ）
（※コロナ禍の影響により、人数制限を実施。令和元年度時点では、
一時保育「どんぐり」：約 2,020 名、つどいの部屋：約 4,400 名、子育て相談 45 名）
- ◆財源：新宿区の公立園かつ地域子育て支援拠点事業として、区の予算を活用

子育て支援事業の内容

●一時保育「どんぐり」

【概要】

日 時	毎週月曜日～土曜日(8:30～17:00)
場 所	子育て支援事業専用室
担当職員	子育て支援事業専任担当の保育教諭 3 名、会計年度任用職員 5 名で、未就園児親子の遊び場開放「つどいの部屋」事業と合わせてローテーションを組み実施
対象者	新宿区内在住で生後 6 か月以上～就学前の子ども
料 金	3,400 円（1 日／1 人）
利用登録	必要
園や職員の役割	場所・保育の提供

- 登録制。保護者が、一時的に保育をできない時（例：仕事、病気療養、子育てのリフレッシュなど）に園で子どもを預かる。就労の有無などの条件は設けていない。

【取り組む上での工夫】

預かる子どもの状況の把握

- 一時保育の場合、在園児と異なり子どもに関する情報が少ない。子どもが居心地よく過ごせる適切な保育のために、利用申込の前に親子と面



園庭で遊ぶ未就園児

談し、子どもの成育歴や平熱、アレルギー、日頃の保護者の子どもへの接し方、子どもが好きなこと、興味・関心等を把握している。

- 利用申込前の聞き取りには時間をかけ、子どもに対応する際の注意点（されたら嫌がることや配慮すべきこと、食事、排泄、着脱などの生活面における家庭での援助の仕方、機嫌が悪くなった時の気分転換の方法など）を確認し、子どもがなるべく落ち着いて安心して過ごせるための情報の提供をしてもらっている。
- 一時保育は専用室を設け、利用する子どもが安心して生活できるようにしている。集団生活に慣れている在園児たちの輪に、集団生活をしたことがなかったり、母子分離に時間が掛かったりする子どもが「その時だけ」の保育に入ることは、利用する子どもにとっても在園児の子どもたちにとっても、保育者にとっても難しいことだと考えている。
- そのため、専用室では家庭的な雰囲気を大切にしている。子どもが日頃から見慣れているキャラクターものや、家庭で遊んでいる玩具を用意するなどをして、通常の保育時よりも雰囲気や関わり方を重要視している。
- 一時保育では子どもを預かる以外に、子育てをこれから学ぶ保護者に向け、子育てのお手伝いをしている。
- 上記の例として保育後に子どもを引き渡す際に、例えば食事の様子に違和感があった子どもには、家庭での食事の様子や形態を聞き、園での様子も合わせて、その子に合いそうな方法を示したり、栄養士を交えて話をしたりしている。またオムツかぶれに対しては、園で行っている対応を伝えるなど、一時保育で分かった子どもの姿から、子育てのヒントとなるような助言を保護者にしている。



子育て支援事業専用室で「0歳児保育」を実施している様子

経験豊富で子どもと遊ぶのが得意な保育教諭を配置

- 在園児とその保護者との長期的な関係性がある通常の保育では、毎日の登降園時に子どもの成長や良さを共有したり、連絡事項などで適宜話したりできるが、一時保育では保護者との信頼関係を築くまでに時間が掛かる。重要な初回の対応や、繰り返し利用する上での信頼感を得るために、子育て支援事業専任の保育者には勤務経験の豊富な教諭を配置している。ここでは時間をかけて信頼関係を構築している。また当日預かる子どもの特性によっては、一時保育と「つどいの部屋」の人員配置を変更している。
- 例として、初めて一時保育を利用する子どもは不安からよく泣いてしまい、保育者が一人付きっきりになってしまうことがあると、「つどいの部屋」の状況と合わせて、一時保育に普段より 1 名保育者を増員するなど、臨機応変な運営を行っている。
- また、同園では、勤務経験の豊富な保育教諭と共に勤務年数の短い保育教諭も配置し、勤務年数の短い保育教諭が先輩保育教諭のスキルを学ぶ機会にもなっている。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

特別な配慮を要する子どもなどへ対応できる体制構築

- 一時保育では、特別な配慮を要する支援が必要な子どもや、保護者が外国籍で日本語に不安のある子どもの利用が増えている。このような場合、人員配置を調整し、子ども一人に対し保育教諭一人を担当とすることもある。
- 特別な配慮を要する支援が必要な子どもには、言葉の掛け方なども意識し肯定的な関わり方をしている。
- 子どもがパニックを起こしたときは、保育教諭と散歩をして気分転換したり好きな玩具で遊んだりして、子どものパニックを解消できるように援助している。

●未就園児親子の遊び場開放「つどいの部屋」

【概要】

日 時	毎週月曜日～土曜日(10:45～14:25)
場 所	四谷子ども園の一室を使用
担当職員	子育て支援事業専任担当の保育教諭3名、会計年度任用職員5名で、一時保育「どんぐり」事業と合わせてローテーションを組む
対象者	新宿区内在住の親子(コロナ禍の現在は、「お楽しみ会」のみ開催。1回5家庭まで)
利用登録	必要
園や職員の役割	場所・歌や遊びの提供

- つどいの部屋として、園の一部を開放し、未就園児親子の遊び場としている。場所の提供以外に、園が主催する「お楽しみ会」(歌の会、ペープサートなど)や、園の栄養士や看護師による離乳食教室・感染対策教室、外部講師を呼んだヨガ教室、ベビーマッサージなどを行っている。
- コロナ禍では「三密」を避けるため、利用者の自由な入退室は中止とし、定員を制限した「お楽しみ会」などを開催している。親子ができる限り利用できるように、コロナ禍の状況では参加人数を制限しながら「お楽しみ会」の回数を増やしている。
- 上記のほか、動画配信を行い、直接来園できない家庭にも楽しんでもらえる工夫を行っている。



「つどいの部屋」で「親子ヨガ」を実施している様子

【取り組む上での工夫】

手軽で子どもと触れ合う機会の多い遊びを紹介

- 子離れを急ぐ保護者が、「子育てには子どもと保護者が触れ合う時間が必要」と気付くように、子どもとのアタッチメントが多い遊びや、ハンカチ一枚で遊べる手遊びなど、手軽かつ子どもも喜ぶ遊びを紹介している。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

ゆっくりとした子育ての良さを伝える支援を意識して行う

- 近年は、「早くから集団生活をさせたい」と考える保護者が増え、生後2ヶ月ぐらいから遊びに来る親子もいるなど、「つどいの部屋」を利用する未就園児低年齢化が進んでいる。
- 低年齢の子どもでも楽しい感情をもってもらえるように、わらべうた等のテンポがゆっくりとした歌や手遊びなどを取り入れている。

●子育て相談

【概要】

日 時	毎週月曜日～金曜日
場 所	四谷子ども園の専用電話(園での対面相談も受け付けている)
担当職員	子育て支援事業専任担当の保育教諭3名(内容によって看護師、栄養士)
対象者	子育てについて相談したい保護者(新宿区内在住に限らない)
事前予約	不要(対面相談は事前予約が必要)
相談件数	34件(年間のべ数)
園や職員の役割	職員による相談対応

- 専用電話を設置し、保育教諭が、保護者からの電話相談を受け付けている。
- 近くに子育てについて相談できる人がいない保護者からの相談が多く、「オムツの外し方、外す時期」「断乳の時期」などの相談がある。

【取り組む上での工夫】

自園だけで解決しようとせず、必要に応じ専門機関への紹介

- 子どもの発達など、保護者からの相談内容によって必要と判断した場合は、保健師や、場合によっては療育などの関係機関を紹介している。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

自園だけで解決しようとせず、必要に応じ専門機関への紹介

- 離乳食の進め方や、食べる量が一定でないことなど、食事に関する相談内容が多くあった。その場合は栄養士が、月齢や日頃の食事の内容、食事に掛かる時間などを聞き取りながら丁寧に助言するようにしている。

子育て支援事業を更に充実させていく上での課題・要望

- コロナ禍などで直接園に来られない家庭に対しても、動画配信などにより遊び方などを紹介していく。掲示板へのチラシ掲示、保健センター等へのチラシ配布など働きかけを工夫してく必要を感じている。公立園は情報発信が得意ではないが、工夫していきたい。

子育て支援事業と地域子育て支援拠点事業の連携状況

- 四谷子ども園が実施している地域子育て支援拠点事業の内容は、地域の方々、関係諸機関と連携し、子育て中の家庭を支援するものである。「子どもを真ん中に保護者と地域の人々が手を携え、子どもの幸せを実現する」という理念を掲げ、積極的に地域人材・団体との連携を図り、子育て支援事業を実施している。
- 本園の子育て支援事業は、「四谷地区乳幼児支援機関関係者連絡会（以下 四子連）」22 団体のうちの 1 つであり、四子連で連絡を取り合ったり、園の情報が載った配布物を交換したりすることで互いに情報の共有を図り、子育て支援事業の普及につなげている。
- コロナ禍のため現在はできていないが、毎年 9 月には四子連で地域でのイベント活動を行っている。イベントでは各園のコーナーを作り、園の紹介を行っている。

【子育て支援事業で大切にしている思い】

最近、子育てを急ごうとする保護者が増えているように感じます。子供のことを無理に大人にさせず、ゆっくり丁寧に育てることが、親子間が育ち、結果的に保護者も楽になると考えています。「どんぐり」や「つどいの部屋」には、幼児教育の必要性をあまり感じていない保護者や、親子の関係づくりで気になることがある親にこそ来ていただきたいと思っています。
本園は「であう」「つながる」「ひろがる」をキーワードに子育て中の親子の輪を広げ、親子共に経験を豊かにすることで、自立した親子の関係と、地域の子育て力の向上を図ることを目的としています。本園の子育て支援事業に参加するからこそ得られる、様々な遊びの経験、在園児と触れ合う経験、行事などでの製作経験、保護者同士の関わりの経験などが、地域の未就園児親子に還元される環境であることを今後も地域に周知し、どの親子、どの家庭も子育てに安心感をもってもらえる事業でありたいです。
後々振り返って子育ての在り方を思う時に「あの時こうしておけば」と思っても、もう戻らない幼子との日々が彩り溢れる毎日であることを願い、新と真を併せ持ちながら子育て支援事業を展開していけるように、今後も職員一同で子育て支援の在り方を考えていきたいと思っています。